

# 地域で防災活動を進めましょう

## 自主防災組織とは

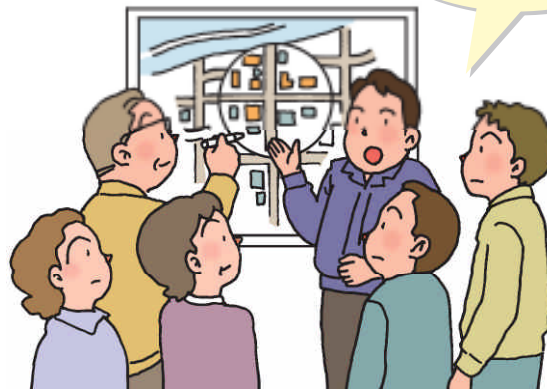
「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えで防災の活動をする組織です。

情報収集伝達班、消火班、避難誘導班、救出救護班、給食給水班のように、あらかじめ役割分担を決めておきます。組織のリーダーや各班の班長を決め、組織的に活動できるようにします。

運動会やお祭りなどの他の行事とあわせて訓練を行うなど、楽しく活動することが長続きして活性化する秘訣です。

- 消防、警察、消防団、自警団、婦人会、子ども会とも連携を取りながら地域に根ざした活動を展開します。
- 家具の固定など、高齢者には難しい場合があります。自主防災組織の活動としてお手伝いすることも可能です。
- 地域の災害時要援護者とも日ごろからおたがいにコミュニケーションをとるように心がけます。
- 地域の商店・企業の協力が得られるように、連携して

阪神・淡路大震災では、8割以上の方が、家族や近所の人などに助け出されたと言われています。大震災の直後は、消防や自衛隊が駆けつけられないこともあります。自分たちの地域は自分たちで守れるようにしましょう。



## ～災害ボランティアに参加しましょう～

災害ボランティアのニーズは時期によって変化します。どのような活動や物資が求められているのか、被災地の発表や災害ボランティアセンターなどのホームページでチェックしましょう。



## 災害ボランティアの心得

- 水・食料・寝袋などは自前で用意し、被災地に負担をかけるないようにします。
- 災害ボランティアセンターで登録し、指示をあおぎます。
- 思いやりの心が不可欠です。被災者の気持ちや都合を最優先させます。



- 災害ボランティア保険は出発前に地元の社会福祉協議会で加入しておきます。現地でスムーズに活動を始めるためにも、被災地に向かう途中でのケガの補償を受けるためにも必要です。
- 被災地での活動や物資の提供以外にも、災害ボランティアへの募金・義援金を送ることもボランティア活動です。